

『神の心にかなうもの』Ⅱサムエル7章18～29節 2018.3.11(主日礼拝説教より)

『主の霊があなたの上に激しく下ると…あなたは新しい人に変えられます。このしるしがあなたに起こったら、手当たりしだい何でもしなさい…』Ⅰサムエル 10:6～7

主はサウルを退け、新たな王を見つけた。その少年ダビデの何が神の心に適ったのか。実は主の心に適わない時もあった！

①御霊の自由の中、のびのび力強く(Ⅰサムエル 10:6)…『主の霊が下ると…あなたは新しい人に変えられます』の通り、サウル王は新しくされたが、間もなく弱さを露呈。敵が結集し、民が離れて行くのを見て大慌てで全焼のいけにえを捧げた。彼は不安の中で自己判断し、人間的に行動した。一方ダビデは主の霊を注がれた後、巨人ゴリヤテと向き合う(17:26～)。その心には、神への絶対的な信頼と圧倒的な臨在感があった。『僕は、あいつがなぶった戦陣の神、万軍の主の御名によって立ち向かう。この闘いは主の闘いだ(17:45・47)』と言い切る彼に、剣も鎧も必要なし！この言葉を、幼稚な子どもの思いつきと見るか、神による決断と見るかで、御霊の導きに対する理解が変わる！★クリスチャンは、全員聖霊を受けている！その聖霊の導きを明確に意識している人は恐れの中でも主の導きを信頼して、のびのび力強く歩める。聖霊の導きを忘れ、目の前の敵(現実)に心奪われる人は神を見失い、自己判断して潰れる！

②聖霊を受け、御心のままに導かれる！(ガラテヤ 3:1～11)…主を信じて御霊を受けた人は、どんな問題(敵・悪・罪の誘惑、失敗や挫折や躓き…)の中にあっても、ダビデのように、単純・素朴に主を信頼し、平安が心を守る！この霊の導きを忘れることが、人生の致命傷となる！ダビデは告白した。『神よ…きよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください…喜んで仕える霊が、私をささえますように(詩篇 51:10～12)』。明らかな罪を犯して神に裁かれた時も、彼は霊に導かれ、すぐに悔い改め、再び神の御心へと軌道修正させられた！「喜んで仕える霊」とは「自由の霊」！絶えず御霊の導きを信頼する人は、為すこと全てが実を結ぶ(詩篇 1:2～3)！神様にえこひいきはなく、罪を犯せば裁かれ、悔い改めれば赦され、祝福へ回復される！砕かれた心は、いつも柔らかかで穏やか！ダビデは人生を振り返り、ただ神に感謝した(Ⅱサムエル7章)。

★目の前の難題に振り回されて自滅する生活でなく、御霊の導きを忘れず、主に信頼し、絶えず悔い改める柔らかかな心で、喜んで仕える霊を、朝ごとに新しくしていただく！